

特別レポート

文=関 香織 (JICA マラウイ事務所)
photo by Special K

MISIAさんとマラウイの孤児たちとの出会い

ケニアのスラムで子どもたちの笑顔に触れ、
子どもの教育支援を行う「CHILD AFRICA」を立ち上げた
アーティストのMISIAさんが、新たな出会いを求め、マラウイを訪れた。
貧しい中でもたくましく生きる孤児たちとの触れ合いから、
彼女は何を得たのだろうか。



孤児施設「コンソールホームス・オーファンケア」の支部にて



子どもたちにサッカーボールをプレゼント

青年海外協力隊員が活動する孤児施設へ

マラウイはアフリカ大陸南東部に位置する内陸国で、北海道と九州を合わせた面積とほぼ同じ。この狭い国土に1350万人が生活している。国家としての紛争はあまり経験していないにもかかわらず、最も貧しい国の一つであり、食料不足、土壌や森林などの天然資源の喪失、HIV/AIDSの影響などの問題を抱えている。しかし、こうした厳しい現実と直面しながらも、たくましく生きている人々の笑顔がマラウイにはあふれている。ぜひMISIAさんに、貧困だけではない元気な姿を感じてほしいと思っていた。

ルホームス・オーファンケア」へ向かった。コンソールホームスは、元神父の夫婦が増加する孤児たちに心を痛め、2000年に立ち上げたNGOだ。当初は63人の孤児を対象にカロク村を中心に活動していたが、今では多くの国際機関やNGOの支援を得て、101の村々で1万9681人の孤児とその家族に、生活・教育・心理ケア支援を行っている。JICAも04年に青年海外協力隊員の派遣を開始。現在は4人の隊員が、幼児教育・青少年活動・村落開発・野菜栽培の分野でそれぞれの技能を生かし連携・活動している。

活動している。私たちはその思いに共感し、今回の滞在が新たな学びや行動につながればと、多くの子どもたちとの出会いの場を準備した。

地域が子どもたちを支える大切さを実感

コンソールホームスの支援のコンセプトは「love is free」。物質的支援ではなく、心理ケアを中心に活動を展開している。一人一人の子どもと向き合う姿勢や、多くの地域住民が活動にかかわっていることにMISIAさんはとても興味を持った。

心理ケア活動は、カウンセリングから、スポーツやお絵かきなどのレクリエーションを通じて行うものまでさまざま。その一つ、下地聖美隊員の企画による村対抗障害物競走を視察したMISIAさんは、子どもたちのあふれる

エネルギーに驚くと同時に、レクリエーションが彼らの心の傷を癒やす効果の高い薬であることを実感したよう。

その翌日、2年前に両親を相次いで失い、足の不自由な祖母と2人で暮らす少女リナを訪ねた。粗末な家で食べるものにも事欠く生活であったも、「将来は何になりたい?」「好きな食べ物は何?」といった問いに、明るく答える彼女の強さに触れた。両親に関する質問には大粒の涙を見せる場面もあったが、「以前は毎日毎日、両親のことを考えて寂しかったけれど、コンソールホームスへ行くようになってから、友達がたくさんできて楽しい。最近両親のことでもあまり思い出さなくなりました」と話した。それを聞き、MISIAさんは改めて、地域が孤児を支えることの重要性を感じたようだ。

マラウイでの滞在は2日間だったが、多くの出会いがあった。子どもたちのみならず、その家族やコンソールホームスを支える職員とボランティアの人々、そして協力隊員。その全員から何かを学ぼう、考えようとしているMISIAさんの真摯な姿は、きっとマラウイの人々にも伝わったであろう。

Child AFRICAの特製Tシャツを4人の方にプレゼント!



応募方法は34ページをご覧ください。



コンソールホームス・オーファンケアの活動について話を聞く